

自然と生きた「縄文人」に想いをはせて、

楽しいキャンプの2日間！

おやぶんの山梨「縄文」サマーキャンプ、

はじまるよ！ テーマソング：「しぜんしぜんしぜん」

詞：芝田勝茂

歌：桑川拓也

まがったキュウリ とがったトマト ひょうたん へちま ひまわりの畑

I love them all I love them all

しぜん しぜん しぜんしぜんしぜん

きこえてくるよ 風の音 水の音 目があったよね いま

なんか通じたよね いま (以下略)

みなさん、こんにちは！今年の夏、山梨県で、1泊2日、参加者25人ほどの、ちいさなサマーキャンプを企画しました。人々が自然とともに暮らしていた縄文時代に想いをはせて、現代に生きている大人も子どもも、「そぼくな心を取り戻してみよう」というキャンプです。お釜で米を炊いてみよう。夜、外に出てみよう。星を見てみよう。土をこねて、土器をつくらう。古代人の家をつくらう。そしていろんなあたらしい友だちと出会うよ！ぜひ、参加してみてください。

2013山梨「縄文」キャンプ企画者・芝田勝茂（個人主宰）

日程：8月10日（土）～11日（日）

キャンプ地：山梨県山梨市牧丘町倉科 3596「農土香（のどか）」

（立川の小学校の先生・荻谷先生が借りておられる一軒家）

参加資格：子どもから大人まで、どなたでも！

定員：25名（定員になり次第締め切ります）。+スタッフ。

参加費：19,000円。宿泊費、食料費、現地費用、保険等：6500円、運

営費（企画、準備費用：3,500円、貸切バス（大型）9,000円。＊バス

代、高速代、乗務員宿泊費等費用がかさみますがお許しください。

スケジュール（予定。天候等により変更の場合もあります）

8月10日（土）午前、渋谷駅東口「クロスタワー」集合。

バスで現地へ。ワークショップテーマ「縄文時代」

◎「土器をつくってみよう」あの、「火焰土器」にチャレンジ！！

みんなでやればきっとすごいものができる！

◎「竪穴式住居」をつくってみよう！穴を掘り、屋根をつくって竪穴式住居（のミニチュア？）をつくらう！

◎晩御飯をつくらう！かまどでお米を炊きます。（野菜とお米を羽咋市農協に依頼交渉します！市長、「神子原米」組合長、「しいたけ」ください！）

◎夜のつどい 夏の夜の定番！近くの神社まできもだめし！夜の楽しさとこわさをたっぷり楽しもう！古事記とか、縄文時代のこととか、未来のこととか、みんなで火をかこんで話してみようよ。おやぶんバンドの「屋根裏コンサート」もあります。楽しいキャンプソングがいっぱい！朗読劇も！

8月11日（日）朝、かまどでごはんを炊きます。お屋のおにぎりもつくってしまおう。後片付けしたら、お屋に川原へ行き、水遊び！地元の温泉にはいっ

て、2日間の汗を流し、渋谷にて解散！主宰（企画・実行・運営責任者）芝田勝茂 協力スタッフ すごい人たち（略）※これは、個人主宰、「有志」のボランティアによる個人参加キャンプです。営利を目的としたものではありません。ご理解とご協力をお願いします。

芝田勝茂：ファンタジー作家、日本ペンクラブ会員。代表作「ふるさは、夏」（福音館文庫）「星の砦」（講談社若い鳥文庫）「ドーム郡シリーズ」（小峰書店）、「サラシナ」（あかね書房）ほか。長い間、サマーキャンプやスキーキャンプのディレクターをしてきました。著書「ぼくらのサマーキャンプ」（国土社）には、オリジナルのキャンプソング「夏が好き、きみが好き」の楽譜も載ってます。

お申し込み・お問い合わせはメールで。 oyabun★b02.itscom.net ★を@に。

ホームページ「時間の木」http://home.u01.itscom.net/shibata/ もぜひごらんください。



火焰（かえん）土器

キャンプ、それは自然。すなおな心。そしてともだち。

(何で縄文時代?)

芝田勝茂です。わたしはこれまで、いろんな物語を書いてきました。「きみに会いたい」や「夜の子どもたち」では核廃棄物や原発の危険を描きました。でも、3.11と、原発事故のあと、いろんなことを考えました。……わたしたちはいま、好むと好まざるにかかわらず、衣食住、生活のすべてにわたって、現代の「文明」を身にまட்டுて暮らしている。そんななかで、いつのまにか、ほんとうに大切なものや、素直なものを見方や考え方を見落としてしまったのではないだろうか。そうだ、余分なものをとりはらって、「自然」にもどって考えてみよう。でも、「自然」ってなんだろう?……とまあ、そんなわけで古事記を読む会をやったり、いろんな出会いがある中で=途中省略=「古代人のそぼくな心をとります、縄文キャンプをやってみよう!」ということになったわけです。わけがわかんない?はい。いや、でも、じつは「みんなで楽しくキャンプしたい!」というのが正直なところ。縄文時代はそのための「キャンプの材料」なんです。でも、これはかなり、おいしい材料ですよ!



(竪穴式住居)

1万年つづいた縄文時代は、じつはとても豊かで、面白い時代でした。ひとびとは、狩をして、木の実を採集するだけの貧しい暮らしをしていたのではなく、どんぐりをいっぱい集めて保存食料にし、焼畑農業をし、春夏秋冬の多様な植物、そして動物海産物を食べ、暮らしに使い、今の日本人の暮らしや「里山」の原型をつくったのです。たぶん、「日本語」も、この1万年の間にゆっくりとかたちづくられたのだと思います。そんなかれらがつくった住居こそ、平安時代や室町時代にいたるまで、庶民の家として使われた「竪穴式住居」です。穴を掘って、柱をたて、萱を葺いて屋根にしたその家こそは、日本人の家の原型です。

十代の感性に語りかける

としょかん通信

児童文学作家 芝田勝茂之ん

児童文学作家、芝田勝茂之んは、1981年、英語ファンタジー「ドーム島の物語」(朝日新聞社)でデビューしました。その作品は、児童を驚かす世界を舞台にした伝説的な物語や、人の心を揺るがす感動的な物語など、十代の強い感性に語りかけてきます。

『海賊の心』

『火焔土器』

『お釜』

『なべ』

『さくら』

『おやぶん』

(火焔土器って?)

のちに稲作が入ってくると、なんだかのっぺりした「弥生式土器」にとって変わられますが、縄文時代の土器はみんな模様や形がおもしろい。中でもすごいのは「火焔土器」です。「変なかたちの土器だ」と思われて博物館の片隅に置かれていました。ところがあるとき、芸術家、岡本太郎(「太陽の塔」なんかで有名ですね)がこれを一目見て、「なんじゃこれはっ!すごい!」とさげんだのです。それでブームになり、火焔土器はいっぺんに世界に有名になりました。でも、これって「火焔?」つまりほのおのかたちなんですか。この土器のかたちは、いったい何をあらわしているんだろう?きつと、つくっているとわかってくるかも?そこに、「縄文人のひみつ」が隠されている、とわたしは思っています。

今回の「縄文」テーマとはちょっとずれますが、「農土香」にある、すばらしい煮炊きの道具、「お釜」や「なべ」を使って、三食とも、じぶんたちで作ってみます。薪を燃やして、お米を炊いてみる。もしかしたら、おこげどころか、真っ黒に焦げてしまって、食べられないかも?スリル満点ですね!そんなふうになんか挑戦してみます。ガスや電気じゃなくて、火をつけないと、煮炊きはできないんだよね。

(煮て、炊いて、焼いて、食べる!)

今回は、「縄文」テーマとはちょっとずれますが、「農土香」にある、すばらしい煮炊きの道具、「お釜」や「なべ」を使って、三食とも、じぶんたちで作ってみます。薪を燃やして、お米を炊いてみる。もしかしたら、おこげどころか、真っ黒に焦げてしまって、食べられないかも?スリル満点ですね!そんなふうになんか挑戦してみます。ガスや電気じゃなくて、火をつけないと、煮炊きはできないんだよね。

(「農土香(のどか)」について)

このキャンプは、半年前に立川市の小学校の図画工作の先生、菖谷政子先生からわたしあてに送られてきた、一通のメールから、実現することになりました。菖谷先生ご夫妻は、この8年間、山梨県の一軒家「農土香」を借りて立川の小学校のこどもたちに年に6回も「いなか体験」をさせておられたのです。自由に使える一軒家。養蚕につかっていた屋根裏もあります。庭で小さな「キャンプファイヤー」もしてみましょ!ぜひぜひ参加してみてください!すてきな仲間に合わせてあげます。待ってます!(スポンサーも募集中!) キャンプ・ディレクター「おやぶん」こと芝田勝茂(しばたかつも)